

令和元年第9回 幸手市教育委員会定例会会議録						
招 集 期 日		令和元年9月17日（火）午前9時30分				
開 会 場 所		幸手市立吉田小学校 1階 会議室				
開会の日時・宣告者		令和元年9月17日（火）午前9時30分			山 西 実	
閉会の日時・宣告者		令和元年9月17日（火）午前11時54分			山 西 実	
出席 状況	職 名	氏 名	摘 要	職 名	氏 名	摘 要
	教 育 長	山 西 実	出席	教育委員	満 木 信 吉	出席
	職務代理者	尾島 紗緒里	出席	教育委員	齊 藤 一 夫	欠席
	教育委員	前 田 一 郎	出席	教育委員	会 田 研 司	出席
傍聴人：0人				書 記：大 竹 孝 典・河 口 奈 緒		
議 事 参 与 者	職 名	氏 名	職 名	氏 名		
	教 育 部 長	杉 田 和 洋				
	総 務 課 長	長 田 広				
	指 導 課 長	堀 越 成 夫				
	社会教育課長	木 村 博				

会議事件名	顛末
開 会 午前 9 時 30 分 日程第 1 吉田小学校の運営 状況等について	教育長 開会を宣する。 吉田小学校長 吉田小学校の運営状況等について、資料により説明する。 《質疑》 会田委員 私は、吉田小学校の近隣に在住しているので、児童とすれ違うことが多々あるが、先程、校長から話があったように、挨拶の習慣が児童にしっかり身についていると感じる。是非、校長から児童を褒めていただきたい。 また、学力については、我々の世代では農村地域の小規模校は学力が低いというイメージがあったが、そうではないという結果も示されているので、成果を強くアピールすることに抵抗もあるかと思うが、地域や保護者の方に上手く伝えていただければと思う。教員の指導力向上のための研修なども充実しているとの話もあったので、引き続きよろしくをお願いしたい。 最後に吉田小学校から、選抜された優秀な教員が長期研修で不在になってしまうという話があったが、それを逆にチャンスと捉えて、新しい教員の育成に力を注いでいただきたい。 吉田小学校長 ありがとうございます。 満木委員 来年度、このままの児童数でいくと、2・3年生が複式学級になってしまうとの話があったが、一人の教員が2学年を指導するというのはどう考えても無理があると思う。既成事実としないで、どこかに提案や相談をする余地は無いのか。 吉田小学校長 複式学級の編成については、法律で定められていることなので、私の範疇ではどうにもできない。学校としては、指導の工夫や、教員のやり繰りによって一教室に教員が二人いる状況を出来るだけ多く作ることしかできない。

	満木委員 7月の定例会で江戸川小中学校の取組をご説明いただいたとき、市費の教員を割り当てて複式学級としないという提案があったかと思うが、教育委員会としてそうした手立てを考えなければならないと思う。 前田委員 複式学級は、こういったときに編成されるのか。 教育部長 連続する2学年の合計が16人以下の場合に編成される。ただし、1年生が8人以上いれば、16人以下でも複式学級とはならない。 例えば1年生が8人で、2年生が4人だとすると、2学年の合計が16人以下となるので複式学級の対象となるが、1年生が8人以上いるのでこの場合は複式学級とはならない。 吉田小学校は、現在の1年生が8人以上いるので複式学級が編成されていないが、このまま進級すると2・3年生の合計が16人以下となるため、複式学級を編成することになるという状況である。 教育長 国や県は決められた定数の配置しかできないので、市費による配置ができるかが来年度の大きな課題の一つになると思う。 学力状況について、児童数が少ないと、個々の児童の成績が全体に大きく影響すると思うが、小規模校の吉田小学校が全国でもトップの位置をキープできている要因は何か。 吉田小学校長 本校の現状は、貯金の取り崩しになってきていると思っている。冒頭でも申し上げたとおり、本校の児童は非常に素直で純朴で、宿題はやるのが当たり前、先生の言うことは聞かないといけないという感覚があった。しかし、スマホやゲームが世の中に出回ってきたことで、保護者が子供をコントロールできなくなってきたと感じると共に、子供に宿題をやらせる根気強さが無くなってきたと感じている。そのため学校が、子供達へ一方的に宿題をやってくるよう指導しても、段々と子供達が学校を向かなくなってきたようになる。殆どの家庭が宿題や家庭学習に協力的だが、実際に登校を渋る児童が出てきている状況もある。児
--	--

	童には今、何のために勉強するのかということをしかりと伝えながら指導していきたい。 教育長 秋田県の学力が高い理由の一つに、昔ながらの当たり前が家庭で浸透していることにあると言われている。吉田小学校の地域もそういう状況であったが、時代の流れで今までの考え方や文化が失われてきているのかもしれない。
日程第 2 前回会議録の承認	教育長 令和元年第 8 回教育委員会定例会の会議録の内容について質問を求める。 《質疑》 質疑なし。 《承認》 全員異議なく承認。
日程第 3 議案第 30 号 幸手市立幼稚園保育料等減免に関する規則の一部を改正する規則	総務課長 議案書により説明する。 《質疑》 質疑無し。 《採決》 全員異議なく原案どおり議決。
議案第 31 号 令和 2 年度当初幸手市小・中学校教職員人事異動方針について	指導課長 議案書により説明する。 《質疑》 満木委員 「令和 2 年度当初教職員人事異動の方針」の「1 基本方針」、及び「令和 2 年度当初幸手市小・中学校教職員人事異動方針細部事項」の「2 転任・転補について」の中で、女性教職員の登用や異動に配慮する記載を追加したとの話があったが、具体的にはどのような配慮を考えているのか。 指導課長 能力がある女性教員を積極的に登用し、個々の能力が十分に発揮できるような各校への配置や、管理職選考で搭載された教頭、校長候補者の配置について、配慮していくことになる。

専決報告第 24 号 幸手市教育委員会教育 長の専決処理に対する 報告について	また妊娠や、出産に伴う産休・育休の取得を配慮した異動を現在も実施しているが、今後も引き続き実施していきたいと考えている。 教育長 事前の適正把握は、どのように行っているのか。 指導課長 後日開催する臨時校長会を通じて人事異動に係る書類を配布するが、配布する書類のうち、教員本人が意向を記入する調書があるので、校長はその調書を見て本人の意向を把握するとともに、教育長を含めたヒアリングを通じて指導課も産休や育休を含めた状況を把握している。 満木委員 医療の現場でも、妊娠・出産を契機に辞められてしまう女性の方がいると聞くので、優秀な女性教員が特に妊娠・出産を契機に辞められないよう、特別なご配慮をいただきたい。 指導課長 人事異動については県の方針もあるので、県と十分に相談しながら、配慮も含めて検討していきたい。 教育長 現在までに妊娠・出産を契機に辞めざるを得ない、または辞められた事例はあるか。 指導課長 私が把握している限りでは、無いと認識している。 《採決》 全員異議なく原案どおり議決。 指導課長 議案書により説明する。 《質疑》 会田委員 病休となった教員の教科は何か。 指導課長 保健体育である。 会田委員 休職に入る以前に病休の期間があったかと思うが、教員が不在の期間はあったのか。 指導課長
---	--

日程第 4 行政報告 1 教育長報告 2 事務局からの 主要な報告	不在の期間があった。代替の教員がなかなか見つからず、8月に入って代替教員の雇用が完了したところである。 教育長 1 令和元年第3回幸手市議会定例会一般質問について資料により説明する。 教育部長 令和元年第3回幸手市議会定例会一般質問（教育委員会部分）について 総務課長 1 令和2年度市内小学校就学予定者健康診断実施予定 2 「幸手市学校情報セキュリティポリシー」及び「実施手順」の改定 指導課長 1 全日本中学校陸上競技大会 2 9月中旬から10月中旬の主な行事 3 小学校修学旅行実施予定日 指導課長（吉田幼稚園） 1 9月の行事予定 社会教育課長 1 文連作品展（主催 幸手市文化団体連合会） 2 第28回埼葛人権を考えるつどい（人権啓発推進埼葛実行委員会） 3 第16回ランチタイムコンサート 4 令和元年度幸手すこやか子育て講座 社会教育課長（公民館） 1 北公民館いきいき大学 2 フロアカーリング教室 3 吉田小学校3年生施設見学 4 職場体験学習に関する生徒受け入れ（幸手中学校） 5 美術・図工わくわく体験教室 6 郷土芸能大会 7 ボンジュールベナン事業フランス語講座 8 いきいき健康講座 9 ボンジュールベナン事業ベナン料理講座
---	---

	10 正しいスマホ・タブレットの使い方講座 11 茶道講座 12 修繕工事 13 8月の利用状況 社会教育課長（郷土資料館） 1 報告事項 2 今後の事業予定 社会教育課長（図書館） 1 報告事項 2 利用状況 3 今後の事業予定 4 予約の多い図書（上位5冊） 5 購入図書リスト 社会教育課長（体育施設） 1 利用状況 2 9月の主な行事予定 について資料により説明する。 《質疑》 尾島職務代理者 10月から12月にかけて東公民館で開催される「正しいスマホ・タブレットの使い方講座」と、10月から11月にかけて同じく東公民館で開催される「茶道講座」の講師は誰か。 社会教育課長 「正しいスマホ・タブレットの使い方講座」の講師は、武藤とみ子氏、「茶道講座」は、加納桂輔氏である。 満木委員 9月7日（土）にアスカル幸手で開催された幸手市教育講演会の感想だが、ご講演いただいた川島隆太氏が非常に驚くべきことをおっしゃっていた。 小学校5年生で3時間以上スマホを使用している児童の脳を中学校2年生の時に計測してみたところ、前頭前野が全く成長しておらず、海馬については萎縮しているという結果が出たとの話があった。小学校5年生の脳のままで、中学校2年生の勉強をいくらやっても、それは絶対に理解できないわけで、今後の社会をその脳で生きていかなければならない今の環境を作った大人を代表して子供達に謝罪したいとおっしゃっていた。
--	--

	また、研究成果は無いが、前頭前野と海馬が読書によって回復した例が、高齢者施設などで実証されているともおっしゃっていた。 極端な話かもしれないが、中学２年生でスマホを３時間近く使用している生徒の脳のMR I を撮影して、その事実を保護者と子供に突き付ければ意識が変わるのではないかなと思う。 東中学校は、授業の一環として生徒が参加していたが、今の環境がこういう状況にあるということを是非、全ての中学生に知っていただきたかった。 教育長 教員については、全校の校長、教頭が参加したほか、吉田小学校のように勤務として全教員が参加した学校もあった。また、生徒の引率方法や予算の段取り、開催日の調整など様々な反省点があるので、また次回、開催するようなことがある場合は、今回の反省点を踏まえて実施していきたい。 MR I は、面白い取組の一つだと思うが、十分な検討が必要だと思う。ちなみに、MR I の撮影は一人いくらぐらいなのか。 教育部長 保険適用外での撮影となるので、10割負担と考えると約２～３万円の費用がかかるかなと思う。 満木委員 今回の講演会開催に当たって、教育長を筆頭に教育委員会の職員の皆さんがご苦労されたことは十分理解しているが、医師会や薬剤師会が教育に非常に興味を持ってきていただいているので、関係機関にご配慮いただくとともに、密に連携・協議して進めていただきたかった。 教育長 今回の事業は、北葛北部医師会や幸手市薬剤師会・歯科医師会と共催して、子供達のために開催できたということは、幸手の教育の長い歴史の中で、素晴らしい取組の一つになったと各団体に感謝している。事前に、運営について十分連携・協議を図れなかったことについては、反省している。次回、開催するようなことがある場合は、今回の反省点を踏まえて実施していきたい。 会田委員
--	--

	あれだけ多くの子供達と保護者が、土曜日の午後に集まったのは凄いと思った。講演に参加した子供が学校で同級生に広めたり、また学校として学級活動や生徒会活動で広められると良いと思う。 スマホに限らず、全てのことが一日一日の授業や学校生活の先にあると思うので、教員の皆さんには今回の講演をきっかけに更に広めていただきながら、将来に夢を持って成長できる子供達の育成に一步一步取り組んでいただきたい。 前田委員 枝久保議員から質問があった「私立中学校の進学の実態」について、昨年は県立伊奈学園中学校も含めて 29 名が市外の中学校に進学したとの答弁があったが、パーセンテージも含めた教育長の見解を伺う。 教育長 私立中学校を選択する理由は、三つあると思っている。一つ目は教育ニーズの多様化、二つ目は保護者の選択肢の幅の拡大、三つ目は近隣に私立の中高一貫校ができてきたといった外的な条件があると思う。また、内的な条件としては、教育機会の選択肢の多様化により、公立離れが出てきていると思っている。 近隣の状況を見ると、約 5 %前後の児童が私立に進学している状況だが、幸手市は県立伊奈学園中学校を含めて 7.3%の進学があったので、1 %くらい高いと思われる。公立離れの流れが少し強くなったのでは、と感じている。 前田委員 私はこの数字が、公立の学校に行かせたくないから余分なお金を払ってまで私立に行かせるんだという保護者の気持ちの表れだと思っている。大学の附属中学校への進学であれば片目をつぶれるが、29 名のうち 5 名しかいない。残りの 24 名はスポーツによる選択もあるかと思うが、全てではないと思う。そういった現実を見て、特に中学校の校長には危機感を持っていただき、私立の中学校に負けるなとまでは言わないが、努力していただきたいと思う。 教育長 このデータは、4 月の校長会で情報共有を図ったところである。進学の理由の一つとして、中高 6 年間で力を付けたいというニーズもあったが、公立ではどうやっても 3 年間
--	--

	しかない。しかし、その３年間の中で公立中学校としての使命を果たすことが私達の役割だということを確認したところである。 公立離れの流れが強くなってきたことが要因の一つと考えるが、貴重なご意見として私も含め、危機感を持って指導していきたい。 満木委員 松田議員から質問があった「全国学力・学習状況調査の詳しい分析について」のうち、詳しい分析結果について、英語の聞くこと、読むこと、書くことの平均正答率が、全国平均と比較して－７ポイント、それから、今後強化すべき対策について、第１に英語科の学習の強化と答弁されているが、－７ポイントを全国平均まで上げるのは、今の英語の授業だけでは絶対不可能だと思う。 何度も申し上げているが、鳥飼玖美子氏がおっしゃるとおり、英語を聞いた後にすぐ日本語を聞くという習慣を、楽器の練習と同じように毎日やって、少なくとも中学校の英語の教科書は誦んじていられるくらいのことをしないと、この７ポイントは埋められないと思う。 また、英文を読める人達が執筆した本を読んで、幸手市に合う指導方法を提案していただきたい。やはり成功した人達の体験を読んで、自分なりに咀嚼して子供達に渡すという過程がないと難しいと思う。 指導課長 満木委員からは常々、ご提案いただいているところだが、幸手市では現在、幸手市学力向上推進委員会で、英語の確認テストやワークシートを検討し、作成しているところである。昨年度、算数・数学について実施し、成果が表れているので、英語についても同様に進めている。 英語の指導のあり方等については、各学校で学力・学習状況調査の結果の考察を実施しており、これを踏まえて今後どう取り組んでいくのかを今月末に開催する幸手市学力向上推進委員会で協議していきたい。 満木委員 そういった取組も素晴らしいと思うが、あまりに時間がかかってしまい、成長に待ったが無い子供達が可哀想だと思う。私が申し上げたことは、１週間もあれば取り組めることだと思うので、英語の教員へ取組の一つとしてお伝えい
--	--

	ただきたい。 会田委員 2020 年度に小学校の 3・4 年生で外国語活動が、5・6 年生で英語が正式教科となるので、これから人事や予算編成の時期となるが、できれば幸手市教育委員会に英語担当の指導主事を新たに配置できないか。大きな自治体では、各教科一名程度の担当指導主事の配置がある。一人の指導主事が複数の教科を担当している現状で、さらに英語をやれと言われても大変だと思う。 教育長 会田委員のおっしゃるとおりで、指導課の現体制では本当に仕事に追われるのが精一杯で、新たなものに手を付ける余裕が無い状況である。物的・人的な面の両面で考えていく必要がある。 会田委員 英語は幸手市の課題なので、市長部局に強くお願いして、小学校の外国語活動、中学校の英語教育、A L T 担当みたいな方を配置できると良い。 一番良いのは現役の英語専門の教員が指導主事として配置されることだが、退職した教員に英語の相談・指導役になっていただくというのはどうか。 教育長 貴重なご意見として承る。 満木委員 枝久保議員から質問があった「アフタースクールの現状」について、アフタースクールは稀に見る成功実績だと思う。課題の一つとして、保護者が送迎できないため参加できない児童がいるとの答弁があったが、予算の問題もあると思うが、送迎バスを出すなどして行きたいのに行けない子がいないようにできると良い。 また、アフタースクールに子供食堂をリンクさせることができると良いかと思う。 教育長 福祉部が主体となるが、土曜日の午前中に勉強した後、子供食堂に寄って帰るといった取組を始めた自治体もある。
--	--

ほ か 特 に 重 要 と 認 め る 事 項	な し
	上記会議の顛末を記載し相違ないことを証するため、ここに署名する。 令和元年10月 8日 教 育 長 山 西 実 署名 署 名 委 員 満 木 信 吉